

病虫害発生予察情報

令和元年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水 稻 】

いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生 (6月4半旬頃) の7~10日前に粒剤施用を行ってください。
なお、補植苗はいもち病の発生源となるため、すみやかに除去してください。

【 か き 】

カキノヘタムシガ (カキミガ)

成虫の見取り調査では、本年の発生量は少なく、発蛾最盛期は判然としません。例年、カキ (富有) の開花最盛期と発蛾最盛期が重なることから、本年のカキ開花最盛期の5月20日前後が本虫の発蛾最盛期であったと考えられます。

防除適期は発蛾最盛期から7~14日後の6月上旬と予測されます。近年発生が長期化していることから、被害が多いほ場ではさらに7~10日後に追加防除を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (6月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
水 稻	生育(コシヒカリ)								・田植え 5/10(農業技術センター)
	生育(ハツシモ)			< 田 植 え >					・田植え 6/10予定(農業技術センター)
	葉 い も ち	並				< 初発生 >			・箱施薬を実施する。
	縞 葉 枯 病	少				< 初 発 生 >			・ 縞葉枯病 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。
	ヒメトビウンカ	やや少		< 第1世代成虫 >					・ ヒメトビウンカ 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。
	ニカメイガ	やや少			< 越冬世代成虫 >				
	防 除 適 期		~ ■葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ						
か き	生育(富有)	並							・開花最盛期 5/20 (平年 5/20 : 農業技術センター)
	ハマキムシ類	やや少						< 第2世代幼虫 >	・ ハマキムシ類 幼虫発生初期 (6月6半旬頃) の防除を徹底する。
	カキノヘタムシガ	少	< 第1世代幼虫 >						・ ジコカガラムシ 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。
	フジコナカイガラムシ	並				< 第1世代1齢幼虫 >			
		防 除 適 期		▲カキノヘタムシガ		▲ハマキムシ類 ▲ジコカガラムシ			
な し	黒 星 病	やや少					< 果実発病最盛期 >		・ 黒星病 発病が散見されるほ場では確実に防除を実施する。
	防 除 適 期		黒星病 ▲ ~						
も も	せん孔細菌病	やや多					< 発病拡大期 >		・ せん孔細菌病 春型枝病斑が確認される場合は摘果時までに取り除く。
	ナシヒメシンクイ	やや少			< 第1世代成虫 >				
		防 除 適 期		▲せん孔細菌病 ▲ナシヒメシンクイ					
果 樹	カメムシ類	やや少	< 越冬世代成虫 >						・夜温が高い場合、突発的にはほ場へ飛来する恐れがあるので、注意する。
	防 除 適 期								
茶	生育(やぶきた:池田)	やや遅					< 二番摘採期 >		
	生育(やぶきた:白川)	やや遅					< 二番摘採期 >		
	岐阜 西濃	ハマキムシ類	やや少					< 第1世代成虫 >	・幼虫発生初期の防除を徹底する。 ・ チャノホソガ 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。
		チャノホソガ	やや少		< 第2世代幼虫 >				
		防 除 適 期		▲チャノホソガ		▲ハマキムシ類			
	中 濃	ハマキムシ類	並			< 第1世代幼虫 >			< 第1世代成虫 >
	チャノホソガ	やや少						< 第1世代成虫 >	
	防 除 適 期								
野 菜	コ ナ ガ	やや少							・同一系統薬剤の連用は避ける (薬剤抵抗性の発達)。
	アブラムシ類	並							
		防 除 適 期		・ アブラムシ類 定植時に粒剤を施用する。					

		病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設 野菜	トマト	灰色かび病	やや少	調査ほ場では発病が認められる。曇天が続く場合は発生すると予測される。 (発病果率 0.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除を徹底する。 施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。 葉かび病 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 うどんこ病 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。
		葉かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。 (発病小葉率 0.0%)	
	キュウリ	べと病	少	調査ほ場では発病が認められる。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。 (発病葉率 0.4%)	
		褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。 (発病葉率 0.0%)	
		うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。引き続き発生に注意する。 (発病葉率 0.0%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）

果樹カメムシ類は、春先、サクラなどの果実を餌として生育します。サクラ果実への吸汁率が80%を超えると餌として適さなくなり、果樹園などへ飛来します。

本年の5月中下旬のサクラ果実吸汁率調査では、一部の調査地点で指標となる80%を超えました（表）。今後、果樹園へ飛来する可能性があります。

特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時（日没後2時間位）に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。

表 チャバネアオカメムシによるサクラ果実吸汁率調査

調査地点名	吸汁果率 (%)
岐阜市	26.7
池田町	30.3
美濃加茂市	43.7
美濃市	92.5

※ 調査日：5月16～21日

モモせん孔細菌病

本病は病原細菌により、枝、葉および果実に発病します。枝での発病は、春型と夏型の病斑があり、春型は開花期から落花期にかけて結果枝の表面に発生します。結果枝にある病斑から5月から6月にかけて、病原細菌が風雨により葉や果実に拡散します。葉では、最初、カスリ状に白っぽくなり、のちに褐変し、穴があきます。果実では初め褐色の小斑点が生じ、果実の肥大にともない大きな病斑となります。本病によって、果実が腐敗することはありませんが、見た目が悪く、品質は大きく低下します。

ほ場内をよく観察し、本病の発生に注意してください。また、以下の対策により本病の防除を徹底してください。

- ①発病枝（春型枝病斑）や新梢葉の発病部は、見つけ次第除去する。
- ②幼果は本病に感染しやすく、落果の原因になるため、早めに袋かけを行う。
- ③防風ネット等による防風対策を行う。
- ④薬剤防除を行う場合、散布ムラのないよう丁寧に行う。



6月～8月は
「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1カ月予報（名古屋地方気象台 5月23日発表）

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は平年並～多い見込みです。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。
http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_12132.html
 〒501-1152 岐阜市又丸729 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767